

■ 車両ベンチマーク・車両分解調査活動 SUZUKI eVITARA 及び BYD SEALION7 試乗会（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、会員企業の皆様が次世代自動車向けの部品製造にチャレンジできるよう、EVの車両分解調査活動などを通して次世代自動車技術に関する情報提供を実施しています。

2026年度には、最新の日本メーカー製EVの「SUZUKI eVITARA」の分解調査を実施するとともに、試乗ベンチマーク活動として最新EVを比較試乗する取組を計画しています。

これに先立ちまして、1月29日の「車両分解活動報告会」において、「SUZUKI eVITARA」と、試乗ベンチマーク活動の試乗車両を予定しています「BYD SEALION7」の車両を展示するとともに、今回、会員企業の皆様に、最新EVの実力を肌で感じていただき、次世代自動車に対応するための調査・研究の一環として役立てていただくため、試乗会を開催しました。

■日 時： 2026年2月16日（月）10時～17時・17日（火）9時40分～17時

■場 所： 交通教育センターレインボー浜名湖

■参加者： 43社／100名

<SUZUKI eVITARA 試乗>



<BYD SEALION7 試乗>



【参加者の声】

- ・試乗してみて、ホームページの資料だけではわからない乗り心地や加速力を体験することができた。このような試乗会は初めてだったがまた参加したい。
- ・初めてEVを運転した。走行時の静かさや、ガソリン車と比べても加速や安定感があり、EVに対するイメージが変わった。
- ・最近のEVの実力（操安、ショック）を実感することができた。
- ・EVの現状の性能（動力含めた運動性、使用性等）の把握は参考になった。
- ・走行性能やノイズといった点において参考になった。
- ・EVの乗り心地を知ることができたことで、求められる部品の精度を想像できた。
- ・国内外の最新EVの走行性能を体感するよい機会になった。テストコースの静かな環境でモータ、インバータ、ギヤ音の質感を聞いて大変参考になった。
- ・操安性（剛性）、静粛性（振動）を体感し、求められるレベルを知ることができた。
- ・ガソリン車との比較（乗りやすさ、加速、内装等）をすることができ、お互いの良い点、悪い点を知ることができた。また、同乗コーディネーターに専門的なことを教えていただき、知識を増やすことができた。
- ・最新の国産EV車の普及価格帯での出来映えを把握できた。世界的に普及している中国車との比較を通し、開発思想の違いを感じ取ることができた。
- ・SEALION7について、中国メーカーの自動車に初めて乗ったが、今最先端の技術があるというのを感じ、正直驚いた。
- ・SEALION7の加速力の強さには驚かされた。一方、eVITARAの静かさ（風切り音がない）の点で完成度の高さが感じられた。
- ・eVITARAはガソリン車からの乗り換えが考えられる正統な進化、SEALION7は車の性能としての進化は素晴らしいがやりすぎの感覚だった。
- ・SEALION7は外観、内装共に見た目は良くできているが、操安性はまだまだといった感じがした。
- ・アクセルペダルに対する加速感、ブレーキ入力に対する制動力の立ち上げ方、乗り心地など、eVITARAの方が完成度が高く、反対にSEALION7の甘さを感じた。
- ・コンセプトが異なっているとはいえ、SEALION7の方がEVに対する知見などが盛り込まれていると感じた。
- ・eVITARAは、扱いやすくEVらしさも演出しバランスより性能。ガソリン車から乗り換えても違和感が少ない。SEALION7は、パワフル、乗り心地は少し固め、ブレーキの動き具合に少し違和感、テスラを意識したインパネ、EVの加速感を味わえ、EVならではの演出。
- ・eVITARAは、車全体でのバランス（運転のしやすさ）が良い。イメージしていた回生ブレーキ感はなく運転しやすかった。SEALION7は、見た目と加速、ブレーキの弱さが目立つ。但し、車内のNVはeVITARAより良い。
- ・SEALION7は静かで技術レベルも高いと感じた。eVITARAはエンジン車に近い味付で乗りやすかった。EVらしい加速と低重心によるハンドリングのよさが伝わった。足まわりの程よいやわらかさが良かった。
- ・2種類のEVを比較できたことで、モータ、インバータの違い、回生の強さの違いを体感することができ、大変参考になった。各社で同じ出力帯でも”味付け”で変わる場合もあるので、今後も注視していきたいと感じた。
- ・遮音やリヤシートのホールド性はSEALION7だったが、操作性はeVITARAが良かった。ハンドルの安定性やブレーキの安心感がよりよく感じられた。
- ・自動車メーカーがICEからEVへ進化した自動車らしさと、EVとはこういうものというEV専用メーカーBYDの車に対しての企画が全く違うと感じた。
- ・インパネやスイッチの装飾など、目に見える部分の豪華な感じは、SEALION7が価格以上に感じた。しかし、ペダル操作感や微小な操作でのギクシャク等、走行における作り込みにおいてはeVITARAが非常に自然であり地道に作り込んできたことがわかる。SEALION7は「見栄」「パワー」など、ステータス性が強くブレーキペダルのフィードバック、スロットル閉～微開の領域に唐突な加速がある等、荒い所がある。